

1 吉津川遺跡・新田川遺跡へようこそ

三条市教育委員会では、国道403号三条北バイパス道路建設工事に伴い、新潟県より委託を受けて、三条市大字下保内地区にある吉津川遺跡・新田川遺跡の発掘調査を7月から行っています。この調査により発見された村の跡や当時の生活用具などの実物を現地で見学いただき、先人が残してくれた地域の財産である遺跡の保護にご理解をいただければ幸いです。

2 吉津川遺跡発掘調査

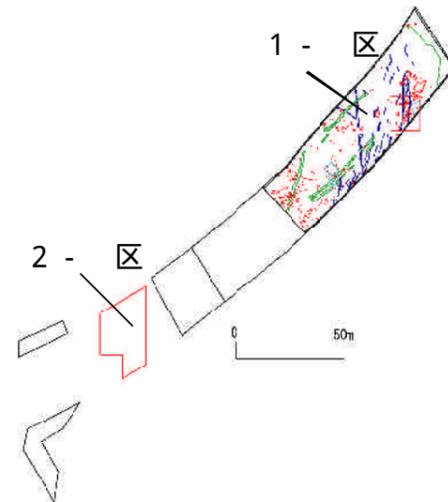
昨年度の吉津川遺跡の調査に引き続き、北側の道路予定地の発掘調査を行っています。奈良・平安時代面(1-区)では、掘立柱建物跡3棟と土坑10基、溝5条、不明遺構26基と280基のピットが検出されました。古墳時代面(2-区)では、人為的な掘り込みと判断される遺構は確認されず、樹木などによる多数の窪みと数本の朽ちた立木が検出されました。

調査は現在も継続中ですので、遺跡の具体的な全体像についてはまだ明らかとはいえませんが、以下では現段階での遺跡内容について、時代別に紹介することとします。

奈良・平安時代の吉津川遺跡

掘立柱建物跡

単独の1棟(SB201)と、重複関係の認められる2棟(SB202・203)が40mほど離れた位置で検出されました。建物構造の点では、総柱式の2棟と側柱式の1棟の差異が認められます。一般的に総柱式の建物は、より重い荷重に耐え得るものとして把握されており、この二種類の建物には利用目的の違いがあったものと考えられます。柱穴からは柱材の一部と土師器が出土しています。また、事前調査では、SB201の周辺から墨書された須恵器の食器が発見されています。



建物跡 (SB201)



柱材の一部



墨書された食器



重複する建物跡 (SB202・203)



奈良・平安時代の全体 (1-区)

吉津川遺跡で確認された平安時代の地震跡

三条市では文政11年(1828年)12月18日に三条地震が起き、大きな被害をもたらしました。また1964年の新潟地震では、4階建ての集合住宅がそのまま横倒しになるなど、地震による液状化現象の威力を改めて私たちに教えてくれました。このような液状化の痕跡が今回の吉津川遺跡の調査でも確認されました。遺跡内の土層断面の観察からは、奈良・平安時代に遡る噴砂の発生が確認でき、古代の吉津川集落の人々が震度以上の大地震に見舞われた事実を示す追加資料が得られたものといえます。



噴砂と土坑 (SK206)

地割れ

主に東寄りの区域にはほぼ南北方向を示して観察されます。最も長い地割れ(107)は、全長40m以上の規模と判断できます。また、噴砂を伴う地割れ(104・105)の土層断面では、噴き上げた砂の高さの違いから最低2回の液状化が、奈良・平安時代に発生したものと考えられます。



大小の地割れ (103~105)



噴き上げた高さの違う砂 (噴砂)

土坑

やはり散発的な分布状況を示します。規模は1m未満の土坑が多く、SK205からは土師器の小片が出土しました。また建物跡に隣接するSK206では、噴砂によって中央部が分断されていました。



長い地割れ (107)



地割れの中に砂が噴き上げています

古墳時代の吉津川遺跡

昨年度の調査では、完全な形に復元できる古墳時代前期の土器が数多く出土しました。この隣接地を今回調査したところ、前回ほど濃密ではありませんが数十片の古墳時代土師器が見つかりました。人為的な掘り込みは検出されていませんが、発掘区の数々に樹木による影響と考えられる不定形の窪み24箇所が点在しており、それらの中には立木の根っこ部分が残っています。全体の土層断面では洪水を示す砂の堆積が何度か観察できますので、水没した低湿地や沼地のような景観ではなく、樹木成長の可能な自然環境であったものと考えられます。

なお見学会には、昨年の吉津川遺跡の調査によって出土した土師器の完形土器を展示いたします。



隣接地より出土した多量の土器 (平成13年度調査)